



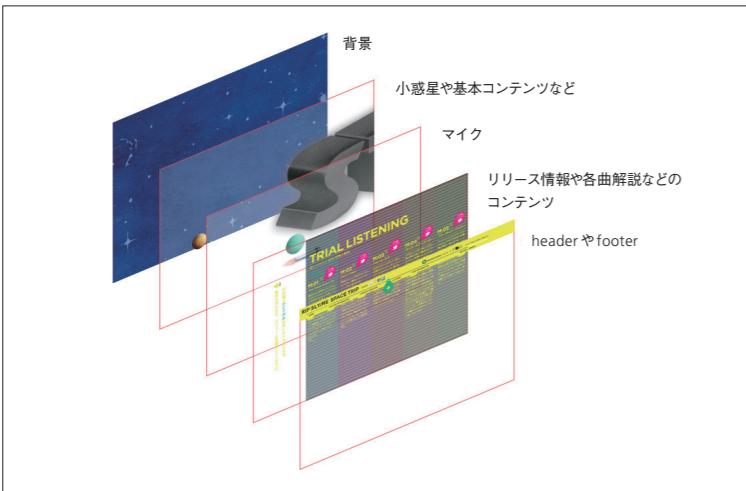
宇宙空間をスライド移動する



RIP SLYME SPACE TRIP

<http://ripslymestar.com/>

RIP SLYMEのオリジナルアルバム『STAR』特設サイト。全曲解説やメンバーのインタビューを読めたり、曲の試聴をしたりできる。また、Twitterと連動したプロモーション企画も展開していた。



各コンテンツのレイヤー

一番下に背景画像、その上に小惑星などのエレメントとキャンペーン告知やライブ情報などの基本コンテンツ、次に横スライドに追隨するマイク型宇宙船、さらにその上にリリース情報や各曲解説などのコンテンツとスタート地点とゴール地点の地球、一番上には黄色のヘッダー／フッターを配置している。惑星や光などの飾りはそれぞれの中間に配置し、小さいものほど下に大きいものほど上に置いている

宇宙空間というコンセプト

ニューアルバム『STAR』のキーワードとなった「原点回帰」「次のステージ」を背景に、RIP SLYMEの進化を感じてもらえるようなユニークなサイトにしようと考えて制作しました。また、キャンペーンサイトであると同時にプロダクトサイトとしても成立させるべく、iPhoneやiPadなどのマルチデバイス対応を必須としました。そのうえで、どのようにRIP SLYMEらしさを表現し、技術的にどこまで実現可能かを見極めることが、このサイトの大きな課題でした。結果として、『STAR』のビジュアルから連想される宇宙的なデザインにし、シューティングゲームのようにサイト

をスライド進行することで、さまざまなコンテンツを楽しむことができる“宇宙空間”を構築しました。負荷を考慮しつつ、サイト全体の奥行きや浮遊感といった細部の演出にこだわることで、ユニークなエンターテインメント体験を実現させました。

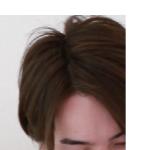
デバイスごとのアニメーションの使い分け

PCからアクセスした場合には、jQueryのアニメーションを使用しています。スマートフォンからの閲覧ではアニメーションを非表示にすることで、負荷を軽減しました。HTML中心のサイトですが、試聴とPV部分にはFlashを使用しています(PVはYouTubeを使用)。どの曲の再生をするかは、スライダーのドラッ

グ終了地点の座標から設定し、Flashに渡して再生しています。再生時はマイクが曲解説の直前に位置するように移動させ、黄色いボックスに表示されるTwitterのつぶやきをタイムラインで見ながら、曲が聴けるような仕組みとなっています。

2Dで実現する奥行きと立体感

サイト上のエレメントは、すべてCSSのpositionとz-indexによって絶対位置と重なり順を指定して配置しています。スライドに追隨するマイクは、各コンテンツの上に乗ったり下に潜ったりしながら進んでいき、宇宙遊泳の冒險感が感じられるようになっています。散りばめられた惑星は小さいものほど速く、



Create & Text 詫間洋介

1983年大阪生まれ。ソニーミュージックグループ入社後、さまざまな制作を経て、現在は、Sony Music Communications Inc.でインターラクティブやコミュニケーション領域を中心に、プランナー／ディレクターとして活躍中。
Twitter : @y_takuma



Create & Text 湯原靖公
1976年、東京生まれ。クリエイティブディレクター。(株)カクスヴィルにてWebサイトの企画や制作を手掛けている。



PC版とスマートフォン版の動作

サイトの横幅は12,000ピクセル以上あり、PCからの閲覧ではjQueryによってページ上部のスライダーと連動してコンテンツをスライドさせている。一方スマートフォンからの閲覧では直観的で馴染みのあるフリック操作での移動を採用し、CSSのtransformでスライドさせている。黄色いヘッタとフッタ以外の要素が、指の動きにあわせてすべて動く。どちらの場合もスライドに追隨するマイクは固定されており、それ以外のコンテンツが動くことで、マイクが移動しているかのように見える仕組みとなっている

“宇宙空間”という世界観を踏襲したプレゼント



Twitterを使ったプレゼントキャンペーンでは、当たるプレゼントの一つがRIP SLYMEオリジナルの宇宙食でした。こちらも弊社(Sony Music Communications Inc.)で制作しています。宇宙というコンセプトを踏襲したグッズであるのはもちろんのこと、中身にもこだわり、JAXA(宇宙航空研究開発機構)で販売されているのと同じものを使用しています。味の候補としてはたこやき味やキムチ味、杏仁豆腐味などがありましたが、今回は甘くておいしい「チョコレートケーキ味」をチョイスしました。珍しいオリジナルグッズは大好評でした。